

【普通作物】の【低温】対策について

<3月>

宮崎県総合農業試験場専門技術センター

【早期水稻】（育苗期～移植期）

（1）予想される被害状況

- ① 発芽の遅延やムラなどが発生する。
- ② 播種後の苗の伸長遅れや、根のマット形成が悪くなる。
- ③ 移植後の苗が寒害を受け、葉先や株が枯死する。

（2）事前対策

- ① 浸種の水温は10℃以上を確保し十分に行い、必ず催芽で芽切りを行う。
- ② 出芽時は30～32℃を保てるよう加温に努め、出芽ムラがある場合は箱の並べ換えを行い揃える。
- ③ 出芽以降の夜間の低温時は、被覆や加温機で必要温度の確保に努める。
- ④ 苗箱への灌水は、夕方行うと地温を下げるので必ず午前中に行う。
- ⑤ 硬化期以降は外気に十分に慣らす、霜害には注意する。
- ⑥ 移植は低温や寒風の強い日避けて行い、移植後は直ちに深水で保温する。
- ⑦ 移植後の低温時や寒風時は深水管理とする。
- ⑧ 昼間の掛け流しは避け、畦波やポリチューブを設置し水温の上昇を図る。
- ⑨ 寒害を受けた場合、本田除草剤の散布は使用範囲の中で遅めにする。
- ⑩ 本田準備は、漏水が激しいと水温が上昇しにくいので代掻きは丁寧にする。

（3）事後対策

- ① 苗の伸長にムラが発生した場合は、箱を置き換えて揃える。
- ② マット形成が不十分で田植えに耐えられない場合は、育苗期間を延長する。この場合、葉色により液肥散布や立枯病等の防除を行う。
- ③ 低温の心配が無くなったら、浅水管理とし水温や地温の上昇を図る。

【ムギ】（幼穂形成期～出穂期）

（1）予想される被害状況

- ① 幼穂伸長期や出穂期頃に低温に遭遇すると、不稔等が発生する。

（2）事前対策

- ① 幼穂形成期以降は低温に対する事前対策が無い場合、分けつ期の麦踏みで生育を遅らせておく。

（3）事後対策

- ① 生育に応じて追肥する。